

総題 「試練を共にされるキリスト」

第9課 賛美の人生

鈴木優人

1. 安息日午後

みなさんは賛美をすることが好きですか？ 賛美とは何だと思えますか？ 嬉しいときや気分の良いときに賛美をすることは難しくないかもしれませんが、色々なことがうまくいかないときや、気分が良くないときに賛美することは難しいかもしれません。しかし、※1 悪い状況にいるときこそ、賛美が必要なときです。賛美は私たちの信仰の助けとなり、私たちの心を変えようとする力があるからです。私たちが賛美によって変えられるということとは、私たちの周りの人にも影響がおよぶ、最悪の状況さえ変えようとする力があるということです。今週は、私たちが賛美を人生の中に取り入れ、賛美することが当たり前となるような生活を送ることで、神様から勝利の力を受けようということを学びます。

※1 悪い状況にいる：色々なことがうまくいかないときや、気分が良くないときに賛美をすることは難しい

2. 日曜日：賛美という概念

フィリピ4：4～7を読んでみましょう。パウロは長い間、牢獄で捕らえられていました。牢獄に入れられるということは、とても厳しい状況にいることを意味します。しかし、それでもパウロは常に喜びながら神様を賛美していました。厳しくて辛いときに喜ぶことは、普通ではありません。しかし、喜ばないとき、辛いときこそ、喜んで賛美するようにパウロはわたしたちに教えているのです。なぜなら、賛美をすることは、信仰を表す行為だからです。賛美は私たちの気分を左右されるものではなく、神様がどのようなお方であるか、何を約束してくださっているかを私たちが理解し、認めることを表す行為なのです。神様の約束を思い出すとき、その約束こそ私たちが喜ぶ理由になります。

3. 月曜日：城壁を崩す祈り

ヨシュア記5：13～6：20を読みましょう。40年間荒野をさまよっていたイスラエルの民はヨルダン川を渡ったあと、平和な牧草地ではなく要塞都市エリコへと導かれました。エリコの城壁はとても頑丈で大きく、※2 とても攻め入ることができるような街ではないように見えました。エリコを攻略するために神がイスラエルに命じた方法は、城壁の周囲を、黙って6日間歩き、7日目にはつのぶえの音とともに関の声を上げることでした。確かに、音というのは空気を振動させることによって伝わります。YouTubeの動画でワイングラスに向かって高い

こえ あ 声を当てるとグラスが割れる、というのを見たことがあります。しかし城 壁を崩したのは彼らのイスラエルの声の
しんどう 振動によるものではありません。「関の声^{とき}をあげなさい」という言葉^{ことば}は、「全地^{ぜんち}よ、神に向か^{かみ}って喜^むびの声^{よろこ}をあげ
よ。御名^{みな}の栄光^{えいこう}をほめ歌え。栄光^{えいこう}に賛美^{さんび}を添えよ」(詩編 6 : 1, 2) で使われている言葉と同じ言葉が使
われています。つまり、関の声^{とき}は賛美^{さんび}のことを表^{あらわ}しています。6 日間の周 回^{むいかかん}によってイスラエルは自分たちの力^{ちから}
で壁を崩すことはできない、という無力^{むりよく}さを感じたと同時に、この壁を崩すには神様の力^{ちから}がなければできない、
ということを理解^{りかい}したことでしょう。その思いが賛美^{さんび}となったのです。

※2 とても攻め入ることができるような街ではないように：とても攻め入ることができないような街に

4. 火曜日：賛美の人生

よい状 況でも悪い状 況でも、常に賛美^{さんび}をできるようになるためには訓練^{くんれん}が必要です。呼吸^{こきゅう}をすることが
あたり前であるのと同じように、賛美^{さんび}もすることがあたり前の日常^{にちじょう}や「生き方^{いかた}」になるには、訓練^{くんれん}と時間^{じかん}がわか
ります。どのように訓練^{くんれん}すればよいでしょうか。詩編 1 4 5 編からヒントを得^えることができます。

① 周囲に目を向けること

視野^{しや}をひろげ、神様が創^{かみさま}られたもの、してくださったことなどに目を向け、神様の偉大^めさとすばらしさに気づ
きましょう。賛美^{さんび}すべきものが周^{まわ}りにないか、探^{さが}してみましょう。

② 見たものを忘れないこと

神様がしてくださったことを思い出^{おも}せるようにしましょう。安息日^{あんそくにち}やバプテスマ式^{しき}、聖餐式^{せいさんしき}なども神様が
してくださったことを思い出^{おも}け機^き会^{かい}です。他にも、賛美^{さんび}すべきことがあ^{わす}れば忘^{しるし}れないための印^{いん}となるものが
あると良いかもしれません。旧約聖書^{きゅうやくせいしよ}でも、ヤコブ^よははしごの夢^{ゆめ}を見^みたところに石^{いし}を立てて名前^{なまえ}をつけまし
た。その場所^{ばしょ}に来^くるたびこ彼は神様の約束^{かれ かみさま やくそく}を思い出^{おも}しました。

③ 見たものについて語ること

賛美^{さんび}はわたしたちの頭^{あたま}の中^{なか}だけでするものではありません。自分以外^{じぶんいがい}の人^{ひと}に向^むけて表^{ひょうげん}現^{げん}することによって、
他の人^{ほか}にも賛美^{さんび}が伝^{つた}わります。ですから、賛美^{さんび}は神様^{かみさま}を知ら^しない人^{ひと}に対する証^{たい}とな^{あかし}ったり、他のクリスチ
ャン^{はげ}に励^{はげ}ましをあたえたりすることができます。

5. 水曜日：罪を示す証人

使徒言行録 1 6 : 1 6 ~ 3 4 を読^よみましょう。パウロとシラスが牢獄^{ろうごく}に入れられたときに他の囚人^{ほか しゅうじん}た
ちは彼らの賛美^{さんび}にき^いいておおじん^{おおじん}ぜんいん^{ぜんいん}とうぼう^{とうぼう}とど^{とど}こうけい^{こうけい}をみた
看守^{かんしゅ}は「先生^{せんせい}方^{がた}、救^{すく}われるためにはどうすべきでしょうか」(使徒 1 6 : 3 0) と言^いったのです。パウロとシラ
スの賛美^{さんび}は、看守^{かんしゅ}と家族^{かぞく}を救^{すく}ったのでした。賛美^{さんび}の力^{ちから}は、人^{ひと}の心^{こころ}に感化^{かんか}を与えるのです。

6. 木曜日：勝利を得させる武器

歴代誌下 2 0 : 1 ~ 3 0 を読^よみましょう。ユダの王ヨシャファトは敵の大軍^{おう}に対して神様に助けを求めま

した。神様は預言者を通して「これはあなたたちの戦いではなく、神の戦いである…主があなたたちを救うのを見よ」と言われました。これを受けてヨシャファトは聖歌隊を編成し、軍の最前列に配置したのです。彼らが大声で神様を賛美すると、敵が同士討ちをして全滅してしまいました。主がかわりに戦ってくださったので、ヨシャファトの軍隊は直接戦う必要がなくなったのです。彼らが主を信じて賛美をしたその瞬間に、神様が介入してくださったのです。エリコのとおりと同じように、ユダの民は賛美によって信仰を表現し、その結果彼らを神様は助けられたのです。

神様が共にいてくださり、味方であることを信じている人は、困難な状況であっても楽観的になることができます。神様がすべてに勝利を収め、すべて必要なものを与えてくださると信じているからです。このことを考えると、賛美をせずにはいられません。

7. 金曜日：さらなる研究

賛美はあなたの周りにいる人々にも神様の栄光を輝かすための光となります。私たちが困難な状況にあっても賛美をし続けることは、誰かにとっての希望にもなるのです。

話し合いのための質問

- あなたは教会で賛美するとき、どのような気持ちで賛美していますか。それはあなたの霊性を高めていますか。
- 賛美があなたの生活に影響を与えた経験はありますか。